



上野幌育種場より

あるのも興味深くあります。しかし反面日照時間が多く地温上昇で根菜類、コーン等の発芽は極めて順調、低温冷害の長期予報で不安にスタートした今年の飼料作も目下のところ安堵しているところです。

六月は牧草の見ごろ

六月十五日の札幌祭り前後が永年牧草の出穂開花期で丁度牧草種類や、品種の比較に絶好期とあって、連日研究、指導者、更に実際栽培家の来場頻りです。

○六月九日 東北六県及び北陸一部の県畜産課、経済連、草地協会、農協の担当者一行約三〇名の研修会。

○六月九日 北海道牧草研究推進協議会一行三〇名（種畜場、道畜産課、改良課、試験場等の関係者）

○六月十二日 育種学会、作物学会の札幌談話会一行六〇名。

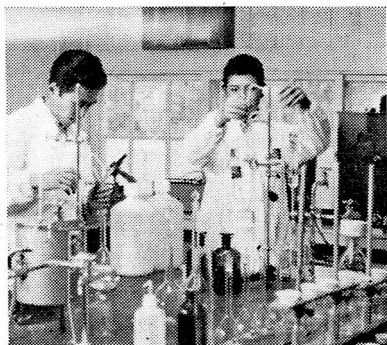
○六月二十三日、道専門技術員一行等々、その顔ぶれもひとり畜産、飼料関係者だけでなしに、病理園芸、水稲から農作物理関係者迄とまことに広範に亘り、飼料作物の重要性が農業界全般に認識されて来たものと喜んでゐる次第です。

或る人曰く、「日本農業は草ケづいて来た」と。

そして来場者のひとしくもらすことは、一〇トぐらいとれるルーサン畑を多くの酪農家に持たせたい、赤クローバーのヘミドリや、オーチャード改良種のような優れた品種を活用したいという飼料増産への限りない前進のようです。

飼料の分析研究開始

春以来準備を急いでいた飼料の分析研究



分析試験室

も江別新工場の操業に膚接して愈々開始しました。現在の家畜の高い能力では粗飼料だけでは充分發揮できません。これに有利な配合飼料を用い始めて十二分な能力を出してくれるわけで、その有利な配合飼料の研究を開始した次第です。

試験鶏舎も一五〇日齢のものが、単飼い、群飼いの両ケージに満ばい、係員が細かい飼養試験に於てこまいの状態です。

そしてこの中から、寒地養鶏の配合規格、ケージ養鶏用の規格と次々に飼育立地条件に合った規格が見出されて来るわけですから忙しい中にも楽しみがあります。

「飼料の〇割〇分は体重となる」というキヤッチフレーズの某製品を使用した区では生後一〇二日で一六匁位の小卵を産み出したものもあり、これでは当分卵は売物にならず、体重も大きくなり、ブレイク用ならとも角、鶏の配合飼料もまだまだ研究改善の余地が多いようです。特に寒冷用としての配合は地元で真剣に研究すべきと思われます。

(六月下旬記)



藤の沢農場より

今年も早や七月、秋蒔作物の準備に多忙のことと思います。

また果樹園も、桜桃の収穫も盛りとなり、早生李の収穫も始り、リンゴ、梨も袋掛けが終り、そろそろ青い一四号の顔も下旬となれば店頭に並べられる事でしょう。

さて弊社の果樹苗木の生産農場、藤の沢農場の近況をお知らせいたします。

今年には幸に好天に恵まれ、接木作業も順調にすすみ、目下活着後の生育も良く、今秋は、藤の沢農場開設以来の良苗の生産が約束されております。特にリングゴについては、例年品不足で皆々様の御用命に応じ兼ねておりましたレッドゴールドは、本年は大量に生産される見込みです。また新しい品種としては、本年度より園芸試験場盛岡支場（旧東北農試園芸部）作出の東北七号も生産される予定です。このほかスターキング、リチャード、旭なども大量に生産が出来る見込みです。

このほか梨は千両を始めとして、国立道農試で育成された北洋、初日、甘玉も目下順調に発育中です。更に梅、桜桃、葡萄苗も順調な発育を続けており、今秋は皆様の御期待に充分応じられると考えております。札幌においでの際は交通も便利ですので、すこし足を伸ばして藤の沢農場へ苗木の育成状況を見に御来場下さい。

簡単ですが、藤の沢農場の近況を御案内申し上げます。

(六月中旬記)